

令和2年度港北区区民意識調査の結果がまとまりました

港北区役所では、区政運営や政策立案の基礎資料として活用することを目的に、区民の皆様の港北のまちや区政に対する意識や期待、生活に関する考え方などについて区民意識調査を実施しました。

今回の調査では、回答のしやすさに配慮するため設問数を厳選した上で、前回調査（平成28年度）から継続した内容に「障害者」「多文化共生」「買い物」等の項目を追加し、区内を12地区に分けた地区別の報告書も作成しました。

<調査概要>

調査対象：①港北区区内にお住いの18歳以上の方3,000人（60人の外国籍区民含む）

②インターネット登録モニターによるWEB調査400人以上

抽出方法：①住民基本台帳等から無作為抽出 ②WEB調査は、登録モニターの有効回答者から抽出

調査期間：令和2年5月20日～6月19日

調査方法：①郵送による配布・回収 ※回収は電子申請・届出サービスも併用

②WEB調査は、インターネットによる質問・回収

回収数等：①1,819件（回収率60.6%：前回34.3%）、②WEB調査412件

<調査結果のポイント>

◆定住意向：港北区に住み続けると思っている方が7割を超える

港北区に「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計が7割を超え（70.3%）、前回調査（74.7%）と比較すると若干の減少ですが、高い定住意向を維持しています。

◆満足している公共サービス：「バス・地下鉄などの便」など交通に関する項目が多い

前回調査から引き続き「バス・地下鉄などの便」（68.1%）が最も多く、交通に関する項目を中心に満足しているサービスとなっています。

◆充実すべき公共サービス：「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」等を充実すべき

前回調査と同様「通勤・通学・買い物道路や歩道の整備」（39.8%）が最も多く、次いで、「地震などの災害対策」（37.7%）、「最寄り駅周辺の整備」（35.1%）となっています。

◆日頃の近所付き合い：「たまに立ち話をする」が最も多いが、近隣との関係は薄れている

「たまに立ち話をする」（41.2%）が最も多いものの、「顔もよく知らない」と「顔を見かける程度で、声をかけることはない」の合計は半数程度（49.1%）と、前回調査（43.8%）よりも多くなっており、近隣との関係は薄れてきています。

◆災害に対する備え：在宅避難に必要な備えの意識は、十分とは言えない

地震があった場合に備えた準備は、「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」と「3日以上飲料水の備蓄」が5割半ば程度、「3日以上食料の備蓄」は4割に留まりました。

また、ひとり暮らしの場合は、すべての項目で全体より備えが少ないことが分かりました。

詳細な報告書は、区ホームページ(<https://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/kusei/tokei/ishiki/r02.html>)に掲載しているほか、港北区役所区政推進課（区役所4階42番窓口）でご覧いただけます。

お問合せ先

港北区区政推進課長 田中 郁雄 Tel 045-540-2220